

南無阿弥陀仏は  
私のいのち

NO.  
448

平成 27 年  
5 月号

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
http://saitokuji.tobihiro.jp/  
発行人 岸本 秀一  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 国分尚三氏)

## 生涯現役

街を歩いていたら「生涯現役の社会」という言葉が目にとまった。とある政党の選挙ポスターの言葉である。景気回復や福祉の充実などは私たちのわかりやすい願望であるが、この言葉は人間存在に一步踏み込んだ表現だと感じた。

しかしどこでそれが成り立つのであろうか。当然、仕事でもスポーツでも必ず引退がある。その理由は年齢や病気、他の人との関係など様々であり、自分の気持ちだけではなく環境に左右される。条件が整ってこそ、その世界の現役でいることが初めて出来る。

中学の体育教師であった星野富弘さんは授業中の不慮の事故によって首から下が不自由になり教師を辞められた。星野さんはある日、病床の窓越しから赤ちゃんをおぶって歩いて行く老人が目に入った。今まであんなすごいことをしていたのか…。当たり前であったことが驚きとして見出されたその瞬間を「れんげつつじ」という詩にされている。

その時、その場所だからこそ出遇える(知らされてくる)この身の事実、驚きがある。それこそが南無阿弥陀仏が開く生涯現役の生活ではないだろうか。自分のしたいことをやり続けるということではなく、どんな時も場所も無駄にさせない場を開くというのが如來の誓いであり魂なのだと感じる。だからこそ生涯現役の名として私どもを「往生人」と呼びかけてくるのであろう。

(山崎 哲記)



## 春季彼岸会・本山差向布教

「本当の自分を見せていただく」

布教使 ふじたに しんどう 藤谷信道 師

去る3月22日(日)、西徳寺本堂におきまして「しゅんきひがんえ春季彼岸会・ほんざんさしむけふきょう本山差向布教」が勤まりました。今回ご縁をいただいたのは兵庫県・にょらいじ芦屋市・ふじたにしんどう如来寺のご住職、藤谷信道師であります。

ご讚題に「無量寿如来に帰命し、不可思議光に南無したてまつる」という『正信偈』の冒頭にあるお言葉をいただかれ、阿弥陀様のはたらきを無量の「いのち」と「ひかり」で表され、私自身を照らし出す慈悲と智慧のはたらきが表されていることをお示しくさせていただきました。

自分の姿ほど見えないものはなく、人間はいつも自是他非という心で暮らしており、自分は善くても他人は認められません。自分の家族が幸せになるのは喜べるが、隣人のことになると妬んでしまいます。昔から「隣に蔵が建てば、わしゃ腹が立つ」といわれるように、人間は他人の幸せが喜べないところがあります。本来は認め合って暮らして行きたいのですが、関係が深いほどお互いを傷つけ合ってしまうものです。

それを経典では「じがいがいひ自害害彼」といわれ、自らを損ない、彼を損なうことから「じそんそんた自損損他」ともいわれます。そういう自分さえ善ければという、自己中心的な我が身を照らし出すはたらきを智慧という言葉で表されています。仏様の光とは、客観的に見られるもう一人の自分といえます。自分が正しいと思っていることに対して、もう一人の自分から我が身を問い直せという声を聞く。本当の自分自身を見せていただくはたらき、これが智慧のはたらきなのです。

この光に遇わせていただくということは聞法、教えを聞き続けていくことであり、それがお念仏をいただく生活であるとお話いただきました。

(聞き手 木村 専正)



## えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

新潟県 西広寺 様  
福生市 木野村 幸彦 様  
船橋市 津田 敏昭 様  
江戸川区 形屋 顕弘 様  
府中市 川端 治樹 様

台東区 入倉 晴治 様  
松戸市 野坂 敏明 様  
荒川区 高嶋 博 様  
江戸川区 谷 晋一 様  
大和市 齊藤 祐三 様  
練馬区 関本 淑子 様  
港区 安井 均 様

台東区 吉川 明子 様  
板橋区 木下 好江 様  
鎌ヶ谷市 鈴木 秀夫 様  
世田谷区 山瀬 一枝 様  
越谷市 隠岐 弘子 様  
茂原市 小野 淳子 様  
さいたま市 井上 實 様

# 親鸞さんのことば

「弥陀の本願には、  
老少善悪の人をえられず、  
ただ信心を要とすとしるべし。  
〔歎異抄〕」

松井憲一

阿弥陀仏の心は、「仏心というは大慈悲（すべてを救う心）是なり（『観無量寿経』）」といわれるように、

「人」をあわれみかなしみはぐくむ心です。つまり阿弥陀仏の本願は、「人」を選ばずに救うのです。しかし、生かされて生きていながら、自分で生きていると思っているわれらは、選んでもらえない本願ほど頷き難いものはありません。それで親鸞聖人は、「弥陀の本願には、老少善悪の人をえられず」と、「老少・善悪」を入れていただかれます。

本願は、「老少」老いた人も若い者も選ばないと聞いて、老少にこだわる自分が教えられます。平均寿命が

延び、医療や福祉が行き届いても、老いの不安をなくすることはできません。むしろ、長寿になった分だけ、老いの寂しさ別れのつらさはふえたとはいえます。その心を少しでもまぎらわそうと、同級生でも自分より老けて見える人、病弱の人と比べて、あの人のことを思えば自分は幸せな方だと安心しようとしています。「若いれば 若いですねと 言われぬ」のが事実であるのに、年のわりには若いですわねといわれていい気になる。人はみな老いさらばえていくのに、若作りをしてまで老少にこだわる自分が見えてきます。

また本願は、「善悪」善い人と悪い人を選ばないといわれて、いつも自分を善しとしている姿が教えられます。善い人と悪い人があるように思います。事実は自分にとって都合のいい人と、都合の悪い人がいるだけです。それにもかかわらず、自分に都合が悪ければ、相手が悪いと決めつけて除こうとします。そして、土地柄や職場や住宅のよさ、さらには家族や子どもや孫たちのよさまで持ち出して、自分をいい位置に付けようとしています。その知り方の独りよがり、自分をますます孤独に追

い込みます。戦争は、誰が見ても最悪ですが、始める時はどの国も民族も、自分が善い、相手が悪いといいつて戦います。善い友だち作りは、気付かぬうちに仲間はずれを作ります。健康は善いと疑いませぬが、健康な人は、体調の悪い人、病人への思いやりができなくなります。

それで、老少善悪を救いの条件にしない本願の広さ深さに遇うのは、「ただ信心を要とすとしるべし。（選ばない本願に素直に頷く信心のみが必要と知るべき）」といわれます。すべてを選ばない本願にふれば、老少をいい善し悪しの心で広い世界を狭くし、不安を増大している自分が知らされます。老少善悪に執われた自分への目覚めは、懺悔となります。親鸞聖人は、「不簡は、えらばずと（『唯信鈔意』）」ともいわれます。老少善悪の人を選ばないというのは、同時に人を嫌わない心です。ひとを嫌わない心は、どの人も一緒にいれることです。あの人にだけは会いたくないという思いに、安らぎはないと気付かされます。

このはてしない選別と排除を流浪するわが身を知らされて頭が下

る、選ばない本願に自分が条件を付けていたと気づいて翻る、それを廻心、信心というのです。だから信心は、老少善悪を選びつめの自分が照破されることです。自分の妄想の正体があらわになれば、不安をご縁として不安を頂戴して歩むことができます。聖人が、お念仏の集いに「念仏そしらんひとを、たすかれとおぼしめして、念仏しあわせたまうべくせうろう（『親鸞聖人御消息集』下）」とお手紙された広い世界が思われます。



# 山門の言葉

## 衆恩の恵みに深く感謝します

これは仏光寺派で唱和されている食前の言葉の一節である。私も小さい頃は、食事の時には声に出していた。その当時は何も考えることはなかったが、最近になり、本山での研修時や、担当しているブロック会の懇親会で唱和機会が増えてくるにつれ、だんだんとこの言葉が気になるようになってきた。

さらに、この言葉の後には、「いただきます」と続くのだが、私たちは「いたいたい何を「いただく」であろうか。以前話題になったことだが、学校の給食で、給食費を払っているのだから子供に「いただきます」と言わせるのはおかしいと、親が学校に抗議したという話を思い出した。

この飽食の時代においては、お金を出せば、食べたいときに食べたい物が食べられるのは、当然だと考えられている。確かにそうなのかもしれないが、果たして食べ物を「いただく」とはそれだけのことなのだろうか。

私たちが当たり前のようにして口にしていく物、それが食べ物になるまでには、数え切れないほどたくさん

命のつながり、数え切れないほどたくさんの人々の手間がかかっているのである。

そのことを忘れ、私たちはお金を払えば何でも食べられると、自分中心の思いで生きている。ところがこの私の命は、実は数え切れない命の恩恵をいただいて成り立っている。そのことが衆恩の恵みという言葉で言い表されている。

食べ物をお願いしているのではない、命をお願いしているのである。この言葉は、そのことに目を覚ませというよびかけの言葉なのではないだろうか。

動物だけでなく、植物にもかけがえない命が宿っている。その命をいただいて私が生かされている。感謝することを忘れ、自分の思いを中心に生きていく。その私に、今一度、私の命に流れている、無量の命への深い感謝の念を促してくるような言葉が、「衆恩の恵みに深く感謝」することであった。

(蓮井 邦宗 記)

## 日誌

3月18日～24日 春季彼岸会

3月22日 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・春季永代経法要  
布教使 藤谷 信道師

3月27日・28日 宗祖忌

3月28日 同行会修習式「現代の聖典」に聞く  
法話 高橋 淳

4月1日～3日 本山式務修習生研修 講習会(蓮井 参加)

4月4日 混声合唱団「エコー」練習

4月4日～11日 山崎 奈良教区 差向布教 派出

4月5日 中央ブロック会聞法会  
(湯島天神・梅香殿 参加者34名)

4月7日・8日 中興忌

4月11日 同行会総会「現代の聖典」に聞く  
法話 蓮井 邦宗

4月14日 『唯信鈔』に聞く(第12回) 講師 宗 正元師

4月15日 婦人会総会(参加者34名)

## 子供文庫できました

平成26年9月に1階待合「星月の間」に今までデッドスペースだった隙間を子供用のスペースとし、子供用の本・折り紙・画用紙等を置きました。児童書は少なくて寂しい感じです。

10月には北島様が「ないたあかおに」、由縁の方々の祥月命日に晨朝参拝されるM・I様が1月に「ぐりとぐらの1ねんかん」、4月に鎌倉在住のN・N様が「おじいさんならできる」・「つきとあそぼう」他4冊、いずれも永遠の名著ばかりです。大変よい児童書が増えました。

婦人会間法会は「星月の間」で毎月1度開かれます。お孫さんをお連れいただいて、そばで遊ばせながら、参加することもできますと思います。是非、小さなお子様連れで、ご参詣ください。坊守



### 境内だより 2

4月号では大勢で境内整備をしていただき、達成感が2倍3倍になったことをお伝えしました。今は山門にチューリップがたくさん咲いております。行き交う人も嬉しそうに見ていらっしゃいます。ある人は「チューリップが咲いているのを見ると幸せ♡!」とゴミ拾いをしている私に声をかけてもらおうと私も「幸せ∞(無限大)」。

さて、3月31日に城東の長尾さんが星月前の庭園の整備をした際に積み残しになっていた根っこを掘り起こしました。これが大変な作業で、息も切れ切れになりました。

さて、5月11日月曜日に西徳寺前国際通りの植え込みの春の花たちを夏の花に植え替えを予定しております。皆様に参加していただきたくお願い申し上げます。汚れてもよいスタイルでご参加ください。坊守

**日 時** 平成27年5月11日(月) 午前9:30から午後3時

**集合場所** 西徳寺「星月の間」

**昼 食** 粗食ですが「海苔弁」を考えております。

※当日はキュービクル工事のため西徳寺全体が停電です。不便な中での作業ですが、是非ご参加下さい。

# 掲示板

平成27年5月

- 2日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 9日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 岸本住職
- 12日(火) 午後1時半 東京教区 声明講習会(西徳寺)
- 16日(土) 午後1時半 定例聞法会  
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 17日(日) 午後2時 城南ブロック会総会・聞法会  
(大井町きゅりあん)
- 19日(火) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第13回)  
講師 宗正元師
- 20日(水) 午後1時 婦人会聞法会 「釈尊伝」に聞く
- 21日(木)～22日(金) 五ブロック主催旅行会(信州方面)
- 23日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 木村主任
- 24日(日) 午後2時 城西ブロック会総会・聞法会  
(中野商会館)
- 26日(火) 午後7時 仏教青年会 『歎異抄』に聞く  
講師 宗正元師

## 同行会修習式・総会

3月28日(土)、本堂において平成26年度「同行会修習式」を執り行い記念品並びに修習証が授与されました。皆勤賞は安藤貴史様、石井正一様。精勤賞は吉川喜章、長尾将男様が表彰されました。

引き続き新年度4月11日(土)、伽羅の間において平成27年度「同行会総会」を開催し、平成26年度事業報告・会計報告、平成27年度事業計画案の承認を頂きました。(山崎 哲 記)



## 仏具磨きのお手伝い、ありがとうございました。

3月4日、お天気は快晴、お彼岸に向けて本堂の仏具磨きを行いました。何度も参加された常連の方々や、今回初めてという方など13名にお手伝いいただきました。皆さん、手際よく作業をこなされ、お磨き以外にも本堂の椅子や窓ガラスを水拭きしていただき、参詣席もピカピカになりました。

午前中の作業が終わり、昼食には恒例のカレーライス。お互いに近況報告をしながら楽しくいただきました。

皆様のご協力により、春季彼岸会・差向布教を盛大にお勤めさせていただくことができました。本当にありがとうございました。(木村 専正 記)

### 【お手伝いくださった方々】 順不同

前田篤彌様	中条啓助様	橘悦子様
谷口博一様	津久田愛之助様	
柿沼一郎様	鈴木弘子様	長尾将男様
加藤晃司様	金子佳子様	高嵯勝子様
猪口可津子様	山元美津江様	

## 中央ブロック会 聞法会

去る4月5日、春雨が降る中、湯島天神・梅香殿にて聞法会が開催され、34名の参加者が集まりました。

挨拶では本間明会長より会を重ねて共に学び続けていきたいという意気込み、また竹内乾一郎評議員会会長からは仏教は今学ぶことが大切だと、力強いお言葉を頂戴しました。

聞法会では岸本住職より『『正信偈』の御文には、お釈迦様の誕生を通じて生まれてきたことの意義を探ることが勧められているとお話がありました。それを受けて会員さんから「仏教に限らず宗教の根本はどれも同じなのではないか」という意見が飛び出し、皆さんそれぞれに感じたことを話し合えた聞法会となりました。

今回は**7月26日**に西徳寺にて開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。(高橋 淳 記)



## 編集後記

シャクナゲ(石楠花)はツツジの一種で、その種類は数百にも及ぶそうです。元々は高山植物でとても困難な場所に生息していたため、入手には危険を伴った為に「高嶺の花」の語源にもなりました。

シャクナゲの花言葉に「荘厳」という意味があるそうですが、5月から各ブロック聞法会の総会が開催されます。皆様の地域に開場を設置(荘厳)して、一人でも多くの方と共にお念仏の謂われを聴聞させていただきたいと思っております。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

[HP http://saitokuji.tobihiro.jp/](http://saitokuji.tobihiro.jp/)

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)